

## 第174回和光市環境づくり市民会議定例会(全体会議)要旨

日 時 令和4年4月19日(火) 午後3時～午後4時30分  
場 所 603会議室  
出席者 6名  
峯岸正雄、高橋勝緒、磯村史織、高橋絹世、友國洋、西沢和美  
傍聴者 なし  
事務局 環境課課長 福島、主幹 阿部、中島

### 1 開会

- 会長あいさつ

### 2 議題

(1)令和3年度の団体における活動報告について

#### 【NPO法人 和光・緑と湧き水の会】

活動場所は大坂ふれあいの森、白子宿特別緑地保全地区、新倉ふれあいの森及び和光樹林公園。

令和3年度は、保全活動を中心に、学校の環境学習への協力、坂下公民館主催環境講座などを実施した。

市に「大坂ふれあいの森の存続と公有地化の要望書」を提出し、公有地化へ一歩前進した。

夏に社会福祉協議会と協働で、主に中学生を対象に自然環境の保全や活用のためのボランティア活動を実施した。

#### 【NPO法人太陽光発電所ネットワーク埼玉】

団体担当者が欠席のため省略

#### 【和光自然環境を守る会】

活動場所は越戸川。東上線ガード下から東和橋までの約2キロ。

令和3年度は、川のゴミ拾いと遊歩道の花壇の手入れで計12回活動、延べ115人が参加した。

「全国一斉身近な水辺の水質調査」に18年連続で参加。荒川、新河岸川、越戸川及び谷中川でサンプル水を分析し、報告した。将来的には、興味を持った小中学生にも参加してもらえるようにしたい。

北原小学校5年生の総合学習支援として、魚とりをしながら、魚の説明をした。

東洋大学工学部青木研究室と協働で、約1.5メートルの落差がある「日の出橋」に、樋を利用した簡易魚道を設置した。現在、日の出橋より上流にはアユはみられない。

(2)令和4年度の年間スケジュールについて

● 令和4年度年間スケジュールについて

〈事務局から説明〉

令和4年度は、環境施策実施状況評価については、例年と同様の9月～12月を行う。翌年2月に市長・教育長との懇談会。3月の会議で、次年度の年間スケジュールを入れた。

● フィールドワークの実施について

〈事務局から説明〉

7月に「フィールドワーク等」としたが、実施するか否か、実施の時期、場所について、意見交換をお願いしたい。

(会長) 去年は、市の南部「富澤湧水」「大坂ふれあいの森」だったので、市の北部「上谷津ふれあいの森」「新倉ふれあいの森」はどうか。

(会員) 過去に、練馬区の中里郷土の森、白子川上流、朝霞市の代官水を見学した。

(会員) 和光市を知るために、市外をみるというのも参考になるかと思う。皆さんの知っている場所、あるいは、知らないが興味のある場所はどうか。

(会長) 環境づくり市民会議は、市から活動的な支援はない。例えば、フィールドワークを利用して、市民を集って勉強会が出来れば、環境づくり市民会議に興味を持ってもらえるのではないか。PRを兼ねたフィールドワークを実施するとか。近隣市や市内外の興味のある場所を任意に選択してバスで巡廻し、交通費を市が負担することが出来れば、環境づくり市民会議へ参加する間口が広がるのではないか。

→ (事務局) 候補地として、市内のふれあいの森と市外が挙がった。市民の方に、環境づくり市民会議の活動内容を知っていただくために、フィールドワークを会員の中だけで実施するのではなく、もう少しオープンに市民の方にも参加していただけるようにするのも、今後の会議のあり方としてポイントになるかと思う。ただし、市でも出来る事と出来ない事があり、お金の面の約束はできない。

→ (会長) 希望する場所があれば、事務局へ提案をお願いしたい。

● 今後の市民会議のあり方について

〈事務局から説明〉

市民会議のあり方について、議論をお願いしたい。会議で出た意見を事務局で取りまとめて、後日、お示ししたい。

(会長) 湧き水や緑を減らすのを防ぎたいという思いから、「公園みどり課」ができ、昨年「みどりの基本計画」が策定された。湧水や緑地保全に係る実行計画を実施する中で、環境づくり市民会議がどのように関係づけられるのか。

(会員) 大坂ふれあいの森と新倉ふれあいの森で、公園みどり課との協働事業で活動している。公園みどり課が策定した「みどりの基本計画」は、自然環境や湧き水を大切にするという目標があり、活動団体の目標と一致する。環境づくり市民会議の環境は、緑の保全や湧水の保全とは異なる気がする。環境づくり市民会

議の中で、環境課と公園みどり課と一緒に話せる機会を設けられるといい。

(会員) この会議は、教育委員会と関係はないのか。

(事務局) 特段、教育委員会との関係はない。当会議から、環境教育や地域活動への教育などの働きかけが出来るといいのかもしれない。

(会員) マルシェやまつりなどで、PRのための環境ブースを設けることは可能なのか。

(事務局) 活動の目的として必要であるなら、ご相談してもらえば対応する。

(会長) 各小学校の総合学習では、会員が所属している各団体が、教育委員会あるいは学校と個別に接触している。

(会員) それは、和光市の環境を学ばせたいということで、教育委員会から団体をお願いしているのか。

(会員) いいえ、環境団体から学校に接触している。PRの事だが、この会のPRと各団体のPRがあって、各団体はまつり等でブースを設けてPRしている。この会も、以前はまつりでブースを設けていた。みどりの基本計画を策定した過程で、環境団体の連携がもう少し出来るべきだという内容が盛り込まれた。先ほど話があったように、この会が、公園みどり課との連携が出来ると、環境団体同士が話し合いをできる会議になるのではないかと。もう少しメンバーを揃えないといけない。今日は、環境づくり市民会議の会員が各団体の活動内容の報告をしたが、会員ではない他の団体を呼んで話をしていただき、会員になってもらうのもいいのではないかと。この会が、公園みどり課と環境課とを繋ぐような形にした会になれば、色々な団体を結びつける機能を持ち得るのではないかと。

(会員) 元々、この会議も多数の団体が参加していた。

(会員) 環境基本計画も多岐に渡っているため、子育てや学校教育、ゴミの関係など様々な団体と連携が取れるといい。この会が環境問題全体に寄与できるといい。この会に「公園みどり課」の担当者にも出席してもらいたい。

(事務局) 議論の中で、2つ論点があがった。会の組織としての機能論と新規会員に加入してもらいたいこと。その時の時代に合った機能のあり方やこの会を長く続けていくために、新たなメンバーが入るような会のあり方も重要であると思う。その他、話にあがっていた教育との連携についても模索していいかと思う。本日の議論にあがった内容を論点としてお示しし、また改めて、5月か6月に議論する機会を設けたい。

(会員) 教育関係で言うと、毎年、教育長との懇談会があるが、大事な機会と捉えている。

(会員) この会の重要な役割として、環境施策の評価がある。我々が、評価するだけの素養を身に付けなければならない。そのための学びや体験をしなければならない。全部体験するわけにはいかなが、緑、地球温暖化、水、廃棄物処理など、色々な事を学び、そのうえで評価する。市には、環境審議会があるが、我々は、それぞれの現場で活動し、関心のある分野も様々である。この会議の役目を考えて、フィールドワークを決めたらどうか。

(会長) 本日の話を事務局で取りまとめて、次の会議で議論したい。

(3)その他

- 今後のスケジュールについて

5月、6月で日程を調整して、フィールドワークと今後の環境づくり市民会議のあり方について、会議を開く。

- 会報「環」について

5月31日までに、600字程度の原稿を環境課宛メールで。

### 3 閉会